

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第2講 活動団体の話を聞こう、自分の資源に気づこう

講師及び担当：山路コーディネーター、岡部、後藤、森（担当）

日時：令和2年8月22日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）
参加者：6期生（8）、コーディネーター、ナビゲーター（5）、サブナビゲーター（3）、発表者（3）
都筑区（1）、瀬谷区（1）事務局（4）
合計：26人（Zoom参加：10名）

●学習目標

1. 活動団体発表

経験豊かな先輩から「活動を始めたきっかけ、活動の苦労、やりがい」についての体験談を聞く。

2. 資源に気づこうワークショップ ～自分の棚卸～：「個人の資源」、「地域の資源」 に気づくことで「夢プラン」作成のヒントとする。

●内容

活動団体発表

●ボイス日本語クラブ：代表 小野原順子さん

活動の苦労があっても「ずっと続けている理由」を語ってくれた。課題は「外国人技能実習生の地域参画の後押し」「コロナ禍でのサポート体制」等。



●鴨居原市民の森愛護会：会長 菅原喜勇勝さん

「楽しい活動」にすることが第一だと思う。コロナ禍で屋外の活動が注目されたせいか会員が増えた。自身のモットーは「議論はしても喧嘩はしない。」



●新治中部地区連合自治会会長・寺山町自治会

会長：臼井孝一さん（修了生）

家族を愛し、地域を愛し、自治会を愛してほしい。（「ひと・まち」で）出会いがあり、自己啓発の学びを深める場になった。



自分の資源に気づこう

6期生の「好きなこと（趣味）」「得意なこと」を発表した。

旅行、食べ歩き、スポーツ観戦、お寺巡り、フライフィッシング、盆栽、ドライブ、キャンプ、就職支援、書道、サックスを吹く等、改めて自分の得意なことは何かに気づき、他者に知らせる機会を設けた。

山路コーディネーターから6期生へ

- ・コミュニケーション力を付けていただきたい。
- ・ひとまちスクールは何のためにやっているか、「アンテナ」を張ってほしい。

- 相手の話したいことを聞く力を持つこと、自分がどんな役に立てるかを意識して行ってほしい。

6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

「印象に残っていること」、「今後活かしていきたいこと」をご記入ください。



- 里山（鴨居原市民の森）を守っている人たちがいてうれしかったです。
- 今回のスクールに参加できたことで知り合えた方々と回を重ねつつコミュニケーションを大切にしたいと思います。
- ボイス日本語クラブに興味を持ちました。2～3年後、時間が取れるようになればボランティアとして参画したいと思います。
- 「自分の資源に気づこう」ワークショップは6期生のさまざまな発表が良かったです。今後うまく連携できればと思います。
- 受講生がそれぞれの資源を発表し、その内容がとても興味深かったです。直接お話ししてみたいなと思いました。
- 活動団体の話では、3名の方それぞれ違った視点からのお話をされとても面白かったです。
- どの取り組みもやりがいや誰かの役に立てる活動で、ぜひ見学してみたいと感じました。
- きょうの内容を改めて自分のペースで考えつつ、何より「仲間」と「楽しい」活動ができるといいなと思いました。
- 山路コーディネーターの講評で「人はそのときそのときで好きな事や興味の持てることは変わっていく。その気持ちをうまく活用する力をつけるが良い」というお話が前向きになれるアドバイスとしてありがたく感じました。



コメント欄（担当ナビゲーター：岡部）

- 人数制限をしているためオンラインを通して学長や修了生が10人も参加してくれた。無事終了、ホットしている。（韓国から聴講してくれた3期生がいた。）
- 6期生の「自分の資源に気づこう」の発表を聞くと、様々な趣味や得意なことがあることが分かった。そこから話が弾む効果や活動に貢献する糸口が見つかる。
- 昨年とは異なり第2講が全体で1時間30分短縮となっていることやランチタイムも設けられないため6期生同士のコミュニケーションが取りにくい状態がある。第3講以降の課題として考えていきたい。
- 山路コーディネーターの「コミュニケーション力」を付けようは、「ひと・まち」スクールの大切な目標のひとつ。人とのつながりが活動を上げていくことを常に意識したい。
- 6期生（受講生）が「出会いの場」から地域の市民活動や自治会活動に参加したいと思えるような「成長の場」へ進むようこれからも応援していきたい。